

Logisnext

三菱ロジスネクスト株式会社

三菱ロジスネクスト株式会社

2023年3月期第2四半期 決算説明会

2022年11月24日

イベント概要

[企業名]	三菱ロジスネクスト株式会社		
[企業 ID]	7105		
[イベント言語]	JPN		
[イベント種類]	決算説明会		
[イベント名]	2023 年 3 月期第 2 四半期 決算説明会		
[決算期]	2022 年度 第 2 四半期		
[日程]	2022 年 11 月 24 日		
[ページ数]	34		
[時間]	15:30 - 16:21 (合計 : 51 分、登壇 : 47 分、質疑応答 : 4 分 (0 件))		
[開催場所]	インターネット配信		
[登壇者]	3 名		
	代表取締役会長	御子神 隆 (以下、御子神)	
	代表取締役社長	間野 裕一 (以下、間野)	
	取締役 執行役員 CFO 財務本部長	宇野 隆俊 (以下、宇野)	

登壇

司会：お待たせいたしました。定刻になりましたので、ただいまから、三菱ロジスネクストの2023年3月期第2四半期の決算説明会を開始させていただきます。

ご多忙のところ、弊社の決算説明会にご参加いただき、誠にありがとうございます。

当初は、東京丸の内での会場でのご参加とZoom配信のハイブリッド開催を予定しておりましたが、昨今の新型コロナウイルス感染拡大の状況を鑑み、急遽Zoom配信のみのリモート開催となったことについて、お詫び申し上げます。急な変更になってしまい、誠に申し訳ございませんでした。

さて、本日でございますが、2023年3月期第2四半期決算概要と中期経営計画進捗状況について、ご説明させていただきますと存じます。

それでは、本日の出席者をご紹介します。代表取締役会長、御子神隆。

御子神：御子神でございます。よろしくお願いいたします。

司会：代表取締役社長、間野裕一。

間野：間野でございます。よろしくお願いいたします。

司会：取締役CFO財務本部本部長、宇野隆俊。

宇野：宇野でございます。よろしくお願いいたします。

司会：以上でございます。

本日の進行でございますが、2023年3月期第2四半期決算概要については、CFO財務本部長の宇野から。中期経営計画進捗状況については、代表取締役社長、間野からご説明させていただきます。

ご説明は約45分間、午後4時15分ごろまでを予定しております。その後に、質疑応答を約15分間、用意しております。質疑の方法については、後ほど質疑応答に入るときに、ご説明させていただきますので、よろしくお願いいたします。なお、本日の説明会の終了予定時刻は、午後4時30分となっております。

本日の資料につきましては、事前にメールにてお知らせさせていただきました URL にて、開示しております決算説明会のプレゼン用のスライド資料をもとに、進めさせていただきます。

それでは、2023年3月期第2四半期決算概要の説明に移ります。宇野本部長、よろしくお願いいたします。

市場環境

- 世界経済は、欧米諸国の物価上昇による金融引き締めや、中国のゼロコロナ政策、ロシアのウクライナ侵攻の影響で景気後退懸念が高まっており、一部地域においては景気後退が始まっている。また、資材費や輸送運賃の高騰、サプライチェーンの混乱も依然として続いている。
- 物流機器市場は、国内においてはコロナ禍前を超えるまでの水準に回復。海外においては、米州はコロナ禍前を上回る需要が継続、アジアも引き続き堅調に推移している一方、欧州は弱含みに推移、中国は減速が見られる。
- 当社においては、受注は概ね好調だが、様々な部品供給の遅れによるリードタイムの長期化や、原材料費、輸送費等のコスト高が前年度から継続している。そのような状況下、国内では部品欠品で出荷が進まない一方、欧米では出荷促進や販売価格改定の効果が出始めている。

連結業績概要

- 売上高は、米州、欧州を中心とした販売台数増に加え、為替の円安影響が寄与し、前年比+29.4%の増収。
- のれん等償却前営業利益は、欧米での販売増や円安影響の寄与があったものの、資材費及び輸送費の高騰影響に加え、国内の部品欠品による出荷減が響き、前年比-1.4%の減益。

宇野：三菱ロジスネクスト、宇野でございます。本日は、弊社 2022 年度第 2 四半期決算説明会にご参加を賜り、誠にありがとうございます。

早速でございますが、本日の資料、前半の決算概要につき私からご説明を申し上げます。

まず、資料の 3 ページ目をご覧ください。弊社を取り巻く市場環境です。

世界経済は欧米での金融引き締め、中国のゼロコロナ政策や、ロシアのウクライナ侵攻の影響から、景気後退懸念が高まっております。また、資材費、輸送費の高騰、およびサプライチェーン混乱も、依然として続いている状況でございます。

こうした中、国内におきましては、フォークリフト市場は堅調に推移しているといえますが、海外では米州、アジアの順調さが続く一方で、欧州、中国は減速の兆し、あるいは明らかな減速となっております。

弊社におきましては、受注は昨年度のようなコロナ禍からの反動需要の取り込みこそ落ち着きましたが、おおむね順調と言えます。しかし、国内においては、部品欠品影響から生産出荷の遅れが目立つ当上期となりました。海外では、年度初こそ上海のロックダウン影響はあったものの、国内に

比べますと、生産出荷を進め、昨年度来積極的に取り組んだ販売価格改定の効果が出てきた状況にございます。

かかる状況下での弊社の連結業績概要でございます。米州、欧州での生産販売の増加、また米国販売子会社 Equipment Depot 社、略称 EQD 社の好調に加え、円安の寄与もあり、売上高は前年同期比プラス 29.4%の増収となりました。これは、上半期としては弊社過去最高の売上高でございます。

のれん等償却前営業利益は、資材費および輸送費の高騰に加え、国内の部品欠品による出荷減が響き、マイナス 1.4%の減益となったものでございます。

2. 決算ハイライト

(単位：億円)

損益計算書	FY2021/2Q	FY2022/2Q	前年同期比増減	
売上高	2,160.9	2,795.9	+635.0	+29.4%
営業利益 (のれん等償却前) (営業利益率)	63.0 (2.9%)	62.1 (2.2%)	-0.8	-1.4%
のれん等償却	47.4	51.3	—	—
営業利益 (営業利益率)	15.6 (0.7%)	10.8 (0.4%)	-4.8	-30.8%
経常利益 (経常利益率)	14.3 (0.7%)	10.2 (0.4%)	-4.0	-28.3%
親会社株主に帰属する 当期純利益 (当期純利益率)	0.2 (0.0%)	-13.5 (-0.5%)	-13.7	—

FY2021/2Q実績レート：USD=109.80円 EUR=130.88円 CNY=16.99円
 FY2021/4Q実績レート：USD=112.38円 EUR=130.56円 CNY=17.51円
 FY2022/2Q実績レート：USD=133.97円 EUR=138.73円 CNY=19.88円

貸借対照表	FY2021/4Q	FY2022/2Q	前期末比増減	
総資産	4,056.0	4,638.9	+582.9	+14.4%
総負債	3,418.6	3,899.7	+481.1	+14.1%
純資産	637.3	739.1	+101.8	+16.0%

© MITSUBISHI LOGISNEXT CO.,LTD. All rights reserved.

4

続きまして、4 ページの決算ハイライトをご覧ください。改めて、主要財務指標につき、ご説明いたします。

青いところが、この当上半期の数字でございます。売上高は 2,796 億円、のれん等償却前営業利益は 62 億円、のれん等償却費が 51 億円計上され、制度会計上の営業利益は 11 億円となりました。売上高は、上期としては過去最高の売上高となりましたが、営業利益は前年度にも若干及ばずとなったものでございます。

のれん等償却費は、前期 47 億円が今期は 51 億円の計上となりました。円安により海外での超過収益力として計上された外貨建てのれん資産の償却額が増加したものです。

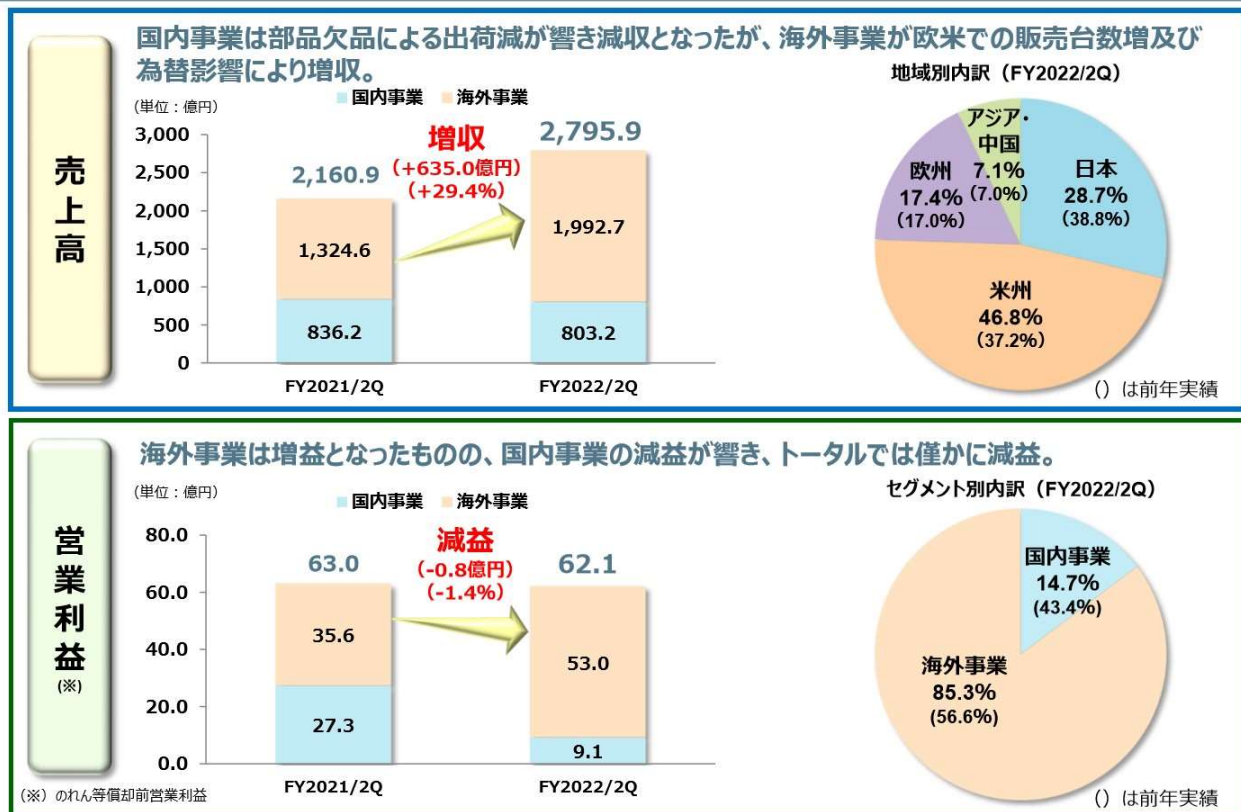
営業利益の後、経常利益、また特別項目、税金費用を経て、純利益はマイナス 13.5 億円と、残念ながら純損失の計上となりました。上半期は、前期に比べますと、営業外項目においては、為替差益の計上があったものの、支払利息の増加がございました。

特別損失としましては、ロシアの販売子会社の売却損失や、上海の製造子会社で 4 月から 5 月にかけての 2 か月間のロックダウンに伴う損失の計上がございました。

また、税金費用につきましては、前期は実効税率が比較的低位に推移したのに対して、今期は逆にやや高めの推移となったというところから、上期当期純損失の計上となったものでございます。

下の表は貸借対照表でございますが、こちらはまた後ほど、資料9ページでご説明させていただきます。

3. セグメント別業績



それでは以降、資料で売上高と営業利益までのところ、詳しく説明してまいりたいと思います。5ページ、6ページは、セグメント別、地域別の状況のご説明です。なお、このページ以降、のれん等償却前営業利益のことを営業利益と呼び、ご説明申し上げますことをご理解いただきたく存じます。

弊社では旧ユニキャリア社の買収に伴うのれん資産の計上後、過去業績や他社業績との比較可能性の観点から、のれん等償却前営業利益という、独特の営業利益項目を重要 KPI としております。

5ページでは、売上高と営業利益のセグメント別の状況を示しております。

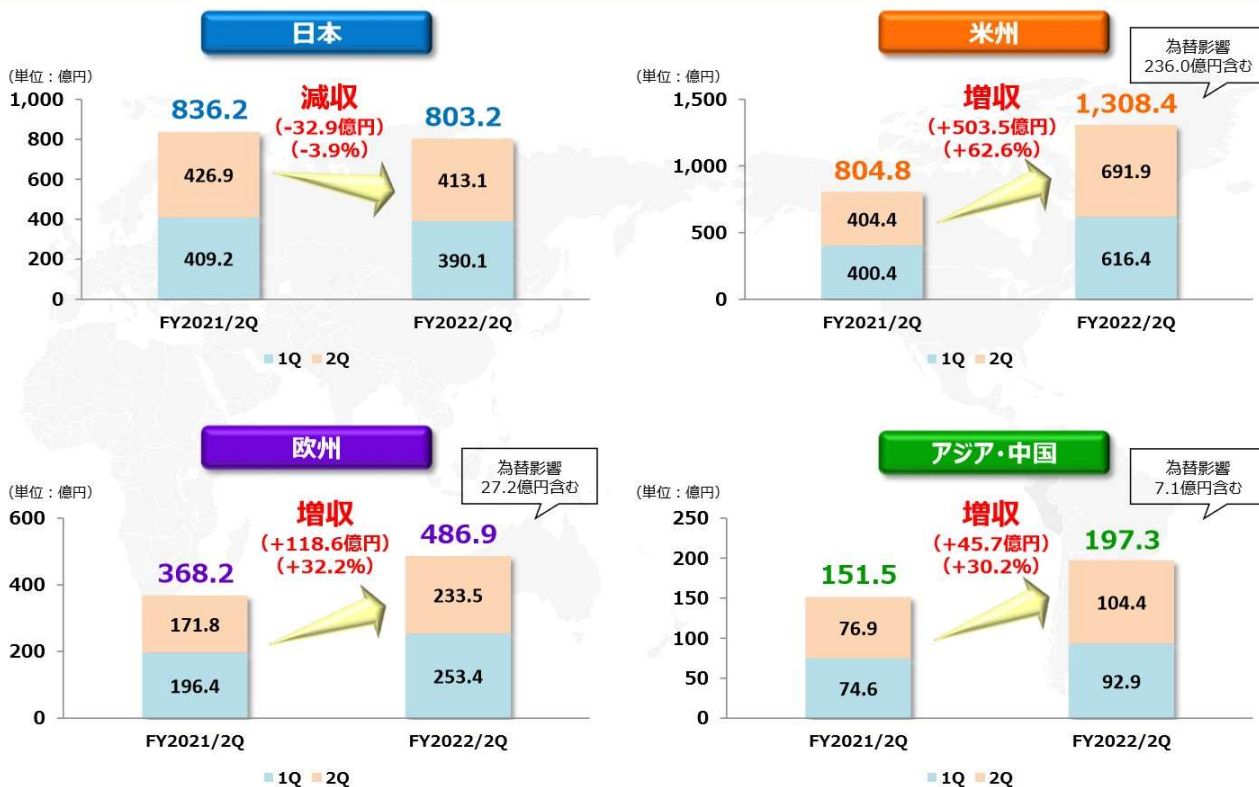
上段の図で示しております通り、売上高は 29.4%の増収でございますが、青色で示す国内事業では、マイナス 3.9%の減収でございます。ベージュ色で示す海外事業の増収がプラス 50.4%、金額にしますと 668 億円と、非常に大きなものとなりました。

国内、海外、いずれも依然として欠品影響はあるものの、特に日本においては、生産・出荷が順調さに欠く上期でございます。海外事業は非常に大きな増収でございますが、新車の販売増加だけ

ではなく、米国 EQD 社のレンタル事業の好調、ならびに円安による換算影響も寄与しております。

下段、営業利益でございます。営業利益はマイナス 1.4%と減益でございます。売上高と同様、国内事業で減益、海外事業で増益となっております。前年度は、国内よりも海外において、より厳しい資材費、輸送費の高騰影響を受けておりましたが、当期に入りましては米州などではコストアップが既にピークアウトを示してきており、昨年度来取り組んできた販価改定が徐々に寄与してきております。一方、国内は、昨年度の後半あたりから資材費、輸送費の高騰が進み、部品の欠品の影響も重なり、大きく減益となったものです。

4. 地域別売上高 (為替影響含む)



6 ページをご覧ください。6 ページは、地域別の売上高、かつ棒グラフは青色が第 1 四半期 3 カ月、またベージュ色が第 2 四半期 3 カ月と、3 カ月ごとに分けて、前年同期比、地域別で売上を示したものでございます。

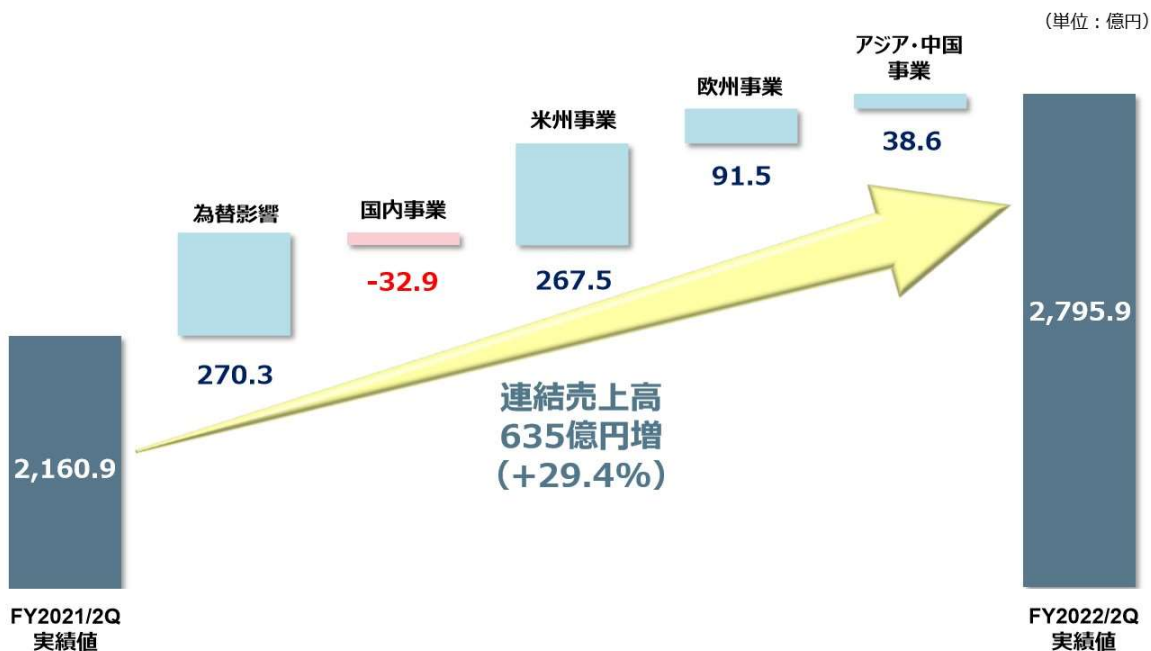
米州、欧州、アジア、中国、海外各地域で大きく増収を達成したこと、特に米州が対ドル円安の影響も含め、際立っての増収となっていることを、ご確認いただけたと思います。

なお第 1 四半期と第 2 四半期、青とベージュ比較いたしますと、欧州のみ第 1 四半期のほうが大きな数字となっております。これはご存じの通り、欧州は夏季休暇シーズンで著しく社会経済活動が低下することが原因でございまして、これは弊社におきましては前期も今期も同様でございます。

5. 連結売上高増減要因 (前年同期実績対比)

国内事業：部品欠品の影響が響き減収。

海外事業：為替の円安影響に加え、米州の販売台数増、およびEQD社^(※)でのサービスやレンタル伸長が寄与。また欧州やアジアでも売上を伸ばした。



(※) EQD社：Equipment Depot, Inc.

© MITSUBISHI LOGISNEXT CO.,LTD. All rights reserved.

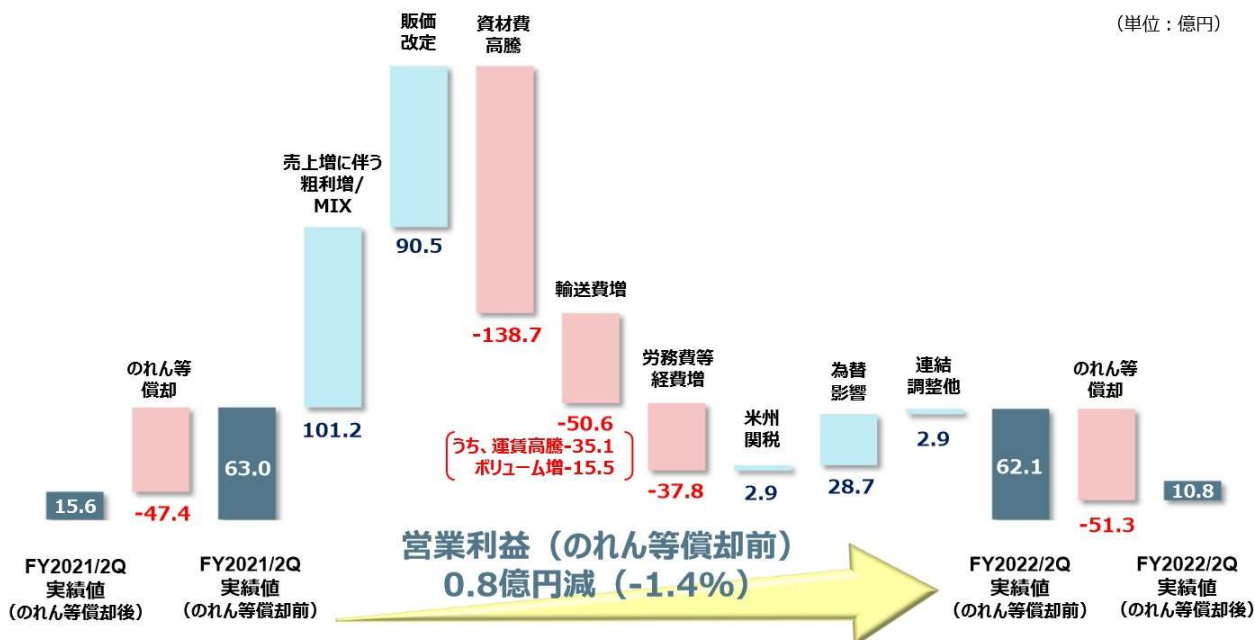
7

7 ページでは、売上高の前期上期から当上期、どの地域で増加が生じたか、為替影響と別出しした上で、ウォーターフォールチャートで示しております。

前ページまででご説明させていただいたことが、簡潔にこの7 ページ上のところで記載されておりますので、数字とともに改めてご確認いただきたいと思います。

6. 連結営業利益増減要因（前年同期実績対比） Logisnext

- ・ 資材費・輸送費等の高騰影響が、販売価格改定効果を上回った。
- ・ 想定を超える円安進行による為替影響が寄与するものの、0.8億円の減益にとどまった。



© MITSUBISHI LOGISNEXT CO.,LTD. All rights reserved.

8

8 ページでは営業利益の前期からの増減を、要因別で示しております。

左から三つ目の前期ののれん等償却前の営業利益実績の 63 億円からスタートいたしますが、売上の増加に伴う粗利益の増加 101 億円、ここに販売価格改定による増益が 91 億円ということで、一旦ここまでで 192 億円の増益要因となります。

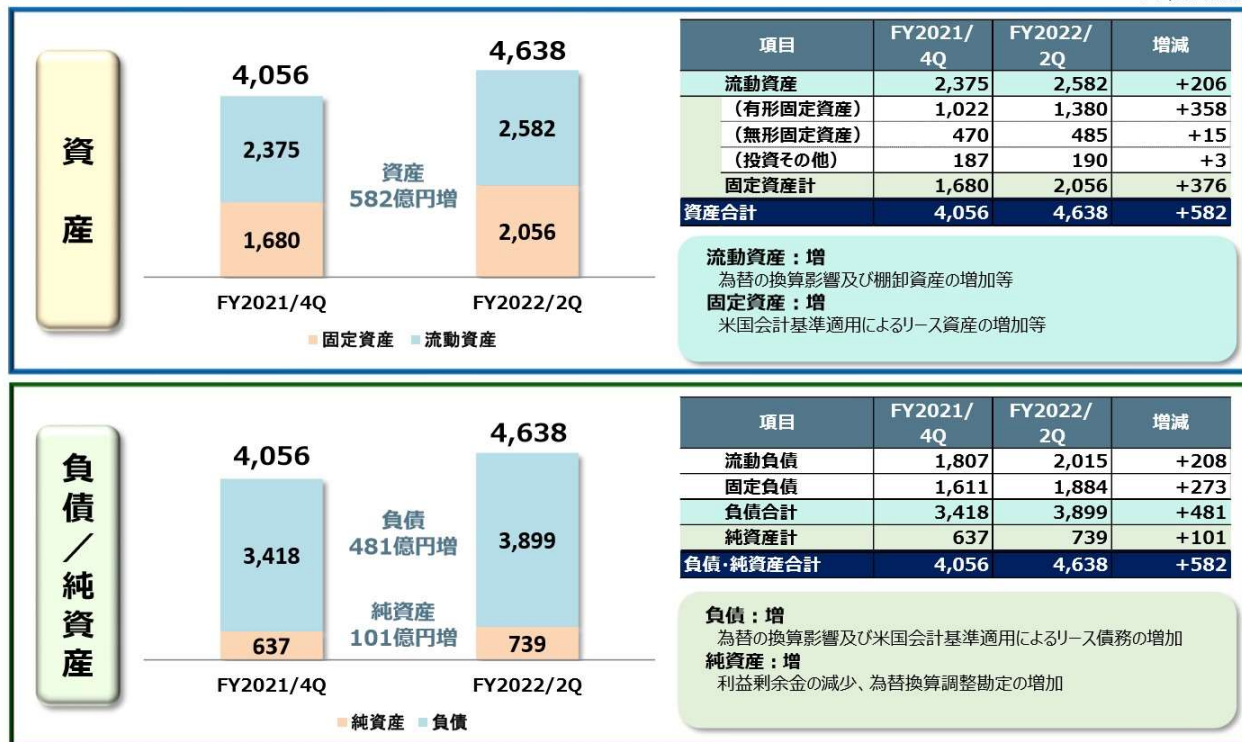
しかしそこから、前年比での資材費、輸送費の高騰、また労務費をはじめとする経費の増加、この三つの項目が 227 億円の減益要因となりました。

ここまでで、差し引き 35 億円の減益となっておりますが、ドル高、円安をはじめとする為替環境の好転寄与が約 30 億円手取れたことで、営業利益は前期比若干の減益にとどまる結果となったものでございます。販売価格改定寄与が資材費・輸送費高騰に対して小さな寄与に留まっている点、国内、海外でやや状況が異なりますので、後ほど、資料 12 ページのところでご説明いたします。

7. 連結貸借対照表

米国会計基準適用によるリース資産の増加及び為替の換算影響により総資産は増加。

(単位：億円)



© MITSUBISHI LOGISNEXT CO.,LTD. All rights reserved.

9

9 ページは、貸借対照表。こちらで主要な変動をご説明いたします。上段が資産、下段が貸方負債と純資産となっております。

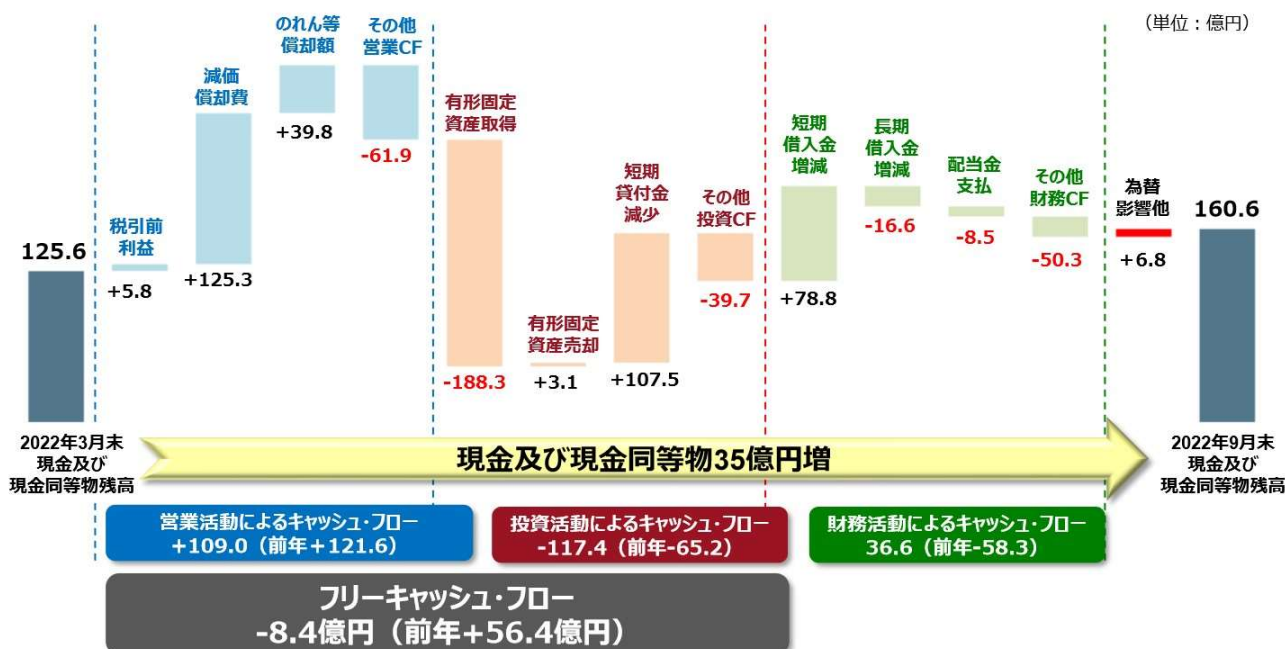
昨年度は売上が大きく増加する中で、サプライチェーン混乱の影響を激しく受け、全世界で製造拠点を中心に、棚卸資産を大きく増加させました。この上期も棚卸資産は184億円前期末から増加しておりますが、為替換算で膨らんだ分を除きますと、今年度に入って部品欠品影響が特に顕著な日本と半導体不足の影響を受けている米国で若干増加させたに留まっております。

総資産増加の主な要因は、米国会計基準の適用というところで、これまで日本基準と同様、米国会計基準はオペレーティングリース資産負債がオフバランス化されておりましたが、米国会計基準では今期からオンバランス化されております。このことによって、総資産、資産側、負債側ともに約300億円バランスシートが膨らんだものでございます。ここに加えて、為替換算で在外子会社のバランスシートが膨らんでいるところが、増加の要因でございます。

なお、円安により、資本の部の為替換算調整勘定が約125億円増加しており、その結果、総資産が増加したにもかかわらず、自己資本比率は前期末の15.6%から当期末微増で15.8%となったものでございます。

8. キャッシュ・フローの状況

- ・ 営業C/Fは109億円のプラスを確保。(法人税等の増加により前年同期比-12.6億円)
- ・ フリーC/Fは米国でのレンタル車増車、企業買収といった積極投資により-8.4億円。
(前年同期比-64.8億円)



© MITSUBISHI LOGISNEXT CO.,LTD. All rights reserved.

10

続きまして、10 ページはキャッシュ・フローの状況です。

営業活動によるキャッシュ・フローは、109 億円の収入を確保したものの、前年に比べますと 12.6 億円の減少でございます。主に、これは税金支払額が 29 億円ほど増加したところが、その原因と考えております。

投資活動は、こちらも前年に比べますと大きく膨らんでおりますが、アメリカを中心に経済活動、社会活動の活発化の中、レンタルフォークリフトの需要が大きく伸びたことから、レンタル用のフォークリフト投資を増加させております。

また、その他投資キャッシュ・フローに含まれておりますが、北米におきまして代理店の買収投資もございました。こうしたことから、支出が増加したものでございます。

この結果、フリーキャッシュフローは前年度の 56 億円の収入から 8 億円の支出へと転じたということでございます。

【参考資料】主な経営指標

Logisnext

	指標	算式	FY2021/4Q		FY2022/2Q		コメント
				(のれん償却前)		(のれん償却前)	
総合	総資本利益率 (ROA)	$\frac{\text{当期純利益}}{\text{総資本}}$	0.2%	(2.2%)	-0.6%	(1.4%)	当期純損失となったことで指数悪化。また、のれん等償却前でも資材費、輸送費高騰や国内事業減収が響き指数悪化。
	自己資本利益率 (ROE)	$\frac{\text{当期純利益}}{\text{自己資本}}$	1.2%	(8.6%)	-4.0%	(5.5%)	
収益性	売上高営業利益率	$\frac{\text{営業利益}}{\text{売上高}}$	0.8%	(2.8%)	0.4%	(2.2%)	
	売上高当期純利益率	$\frac{\text{当期純利益}}{\text{売上高}}$	0.2%	(2.1%)	-0.5%	(1.2%)	
効率性	総資本回転率	$\frac{\text{売上高}}{\text{総資本}}$	1.2回		1.3回		
	売上債権回転率	$\frac{\text{売上高}}{\text{売上債権}}$	6.0回		6.8回		
	棚卸資産回転率	$\frac{\text{売上原価}}{\text{棚卸資産}}$	4.6回		4.1回		
安全性	自己資本比率	$\frac{\text{自己資本}}{\text{総資本}}$	15.6%		15.8%		
	D/Eレシオ	$\frac{\text{有利子負債}}{\text{株主資本}}$	3.0倍		3.2倍		
株式関連	1株あたり利益	$\frac{\text{当期純利益}}{\text{発行済株式数}}$	6.73円	(89.52円)	-25.34円	(65.18円)	株価： 2022年3月末：932円 2022年9月末：738円
	株価収益率 (PER)	$\frac{\text{株価}}{\text{1株あたり利益}}$	138.5倍	(10.4倍)	-	(11.3倍)	
	株価純資産倍率 (PBR)	$\frac{\text{株価}}{\text{1株あたり純資産}}$	1.6倍		1.1倍		

※PL項目は年換算して算出

11 ページは、ROA をはじめとする、主要各種経営財務指標を記載しておりますので、ご参考までとさせていただきます。

【参考資料】四半期推移



© MITSUBISHI LOGISNEXT CO.,LTD. All rights reserved.

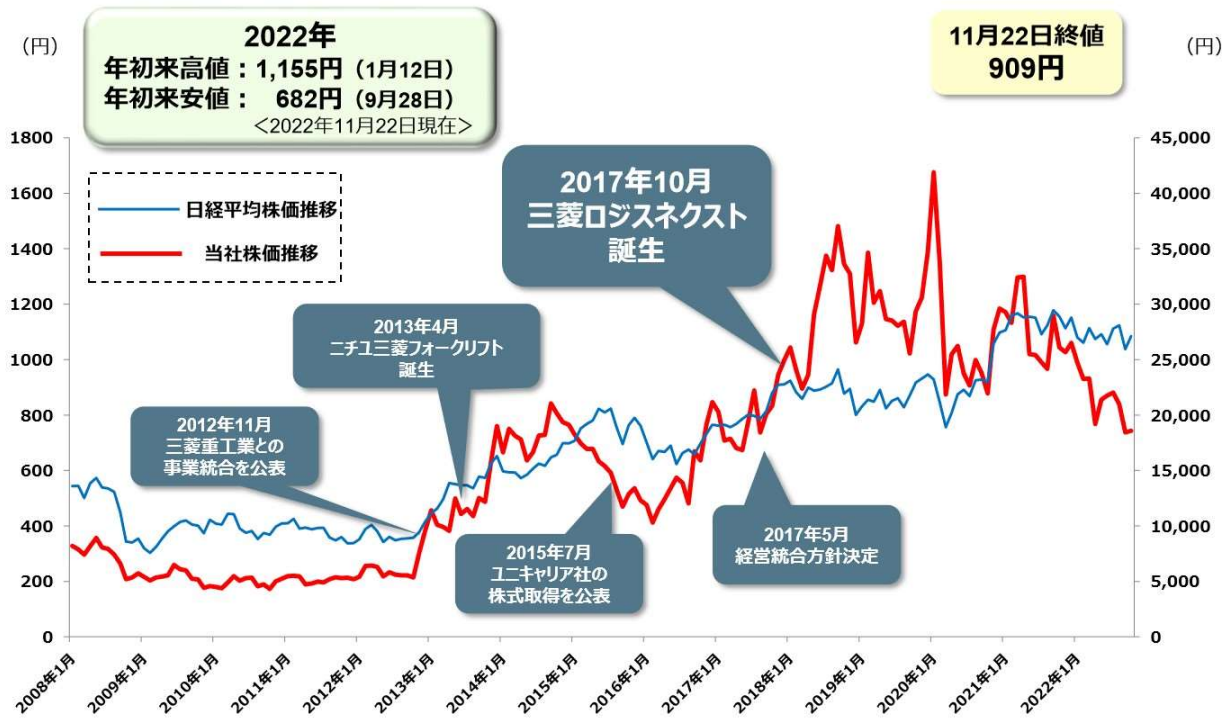
12

12 ページは、売上高、営業利益を、四半期ごとの推移を示したものでございます。ここでも青色が国内、ベージュ色が海外でございます。

前年度から各四半期順調に売上を伸ばす一方で、前年度の第4四半期と今年度の第1四半期は、資材費、輸送費のコスト悪化影響と、それに対する販売価格の改定効果寄与の遅れとのギャップが大きく出た期となっております。

しかれども、特に海外においては、この第1四半期、第2四半期、比較的順調に推移したということで、このコストアップと販売価格改定効果の寄与の遅れというギャップが急激に縮小して、営業利益を大きく伸ばすことができたというところでございます。海外におきましては、米欧いずれも、既にコストアップが昨年激しく生じておりましたので、そこに合わせて、昨年度中に複数回の販売価格改定を既に行っていたというのが、今年度になって寄与したと見ております。

一方、国内は、昨年度後半から資材費、輸送費の高騰が強く進み始めました。その結果、コストアップに対する販売価格の改定効果の遅れが現状生じており、更に生産出荷の遅れも相まって、国内では第1四半期、第2四半期、営業利益について低調になったというものでございます。



© MITSUBISHI LOGISNEXT CO.,LTD. All rights reserved.

13 ページ、これも参考資料として、株価の推移を記載しておりますので、こちらをご参考までとさせていただきます。

以上をもちまして、私からの決算概要の説明は終わらせていただきたいと思います。ありがとうございました。

司会：ありがとうございました。それでは引き続き、中期経営計画進捗状況の説明に移ります。間野社長よろしくお願いたします。

間野：社長の間野でございます。本日はお忙しい中、ご参加いただきまして、誠にありがとうございます。

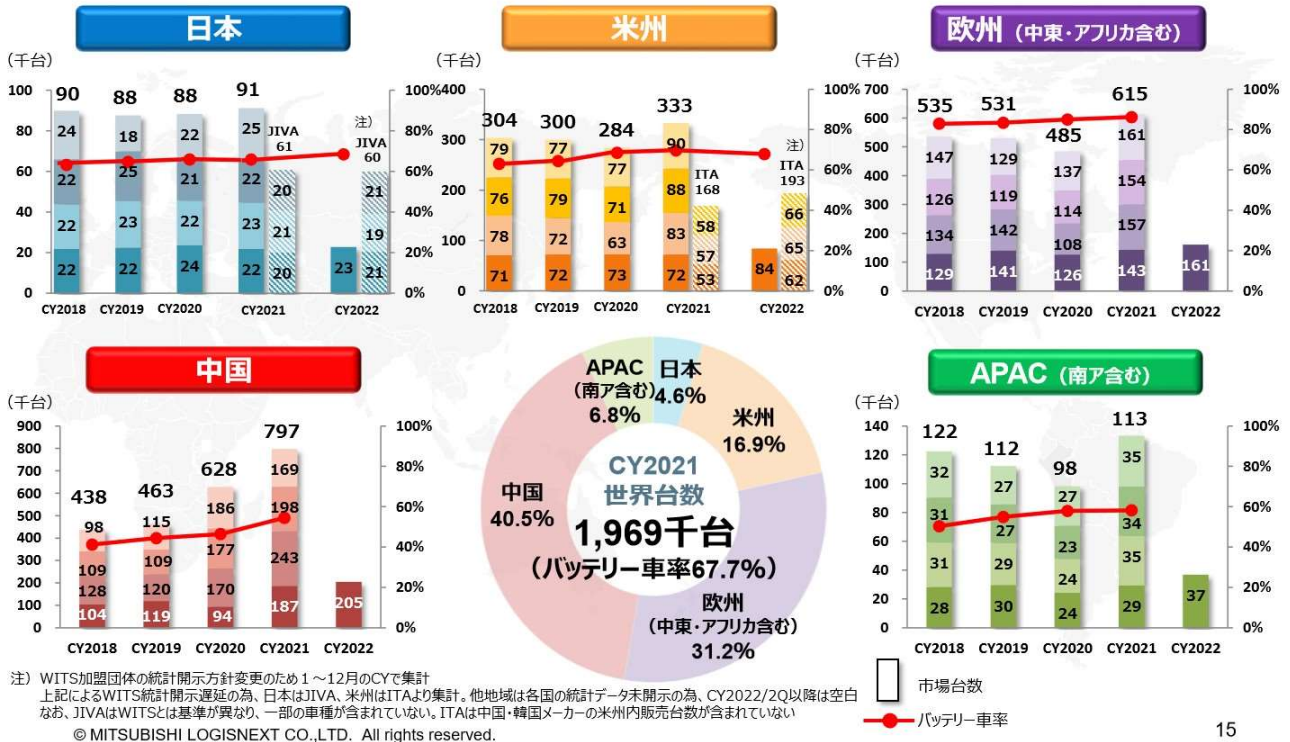
先ほど宇野から申しあげました通り、今年度上期におきましては、海外での販売台数増や、想定を超える円安進行による為替影響で、売上はおかげさまで順調に推移しております。

一方で、営業利益については、価格改定効果や為替影響などが寄与したものの、前年度から続いている資材費、輸送費の高騰影響を大きく受けており、前年度レベルにとどまっているというような状態であります。

引き続き、欧米諸国の金融引き締めや、ロシアのウクライナ侵攻等、事業環境は不透明で予断を許さない状況であるということではありますが、年度予想も含めて、中期経営計画の進捗状況について、この場を借りてご説明させていただきます。

1. フォークリフト市場動向【出荷】(1月~9月)

世界経済の不透明感が強まる中、日本(JIVA)は前年比ほぼ同水準で推移、米州(ITA)は前年を上回った。



15 ページ、まずは世界のフォークリフト出荷台数の実績について、説明させていただきます。

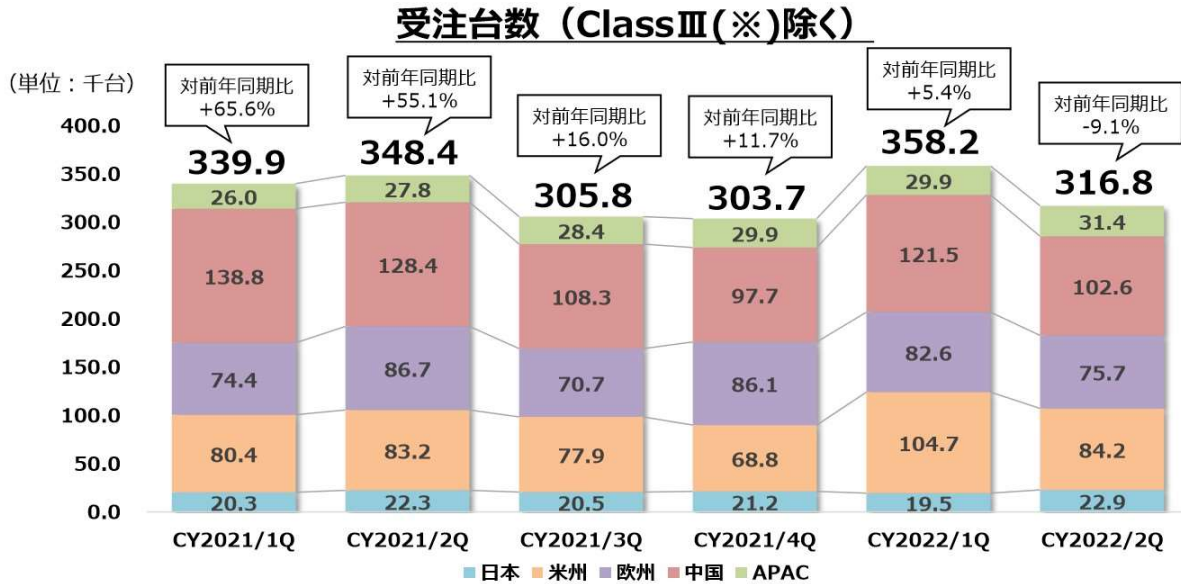
この世界産業車両統計、WITS と呼んでおりますこちらのデータは、今年に入ってから加盟団体の統計開示方針が変更になりまして、出荷は6 カ月遅れの 2022 年 3 月までのデータとなっており、1 月から 12 月のカレンダーイヤーで集計をしております。

棒グラフは、各地域の過去 5 年間の出荷台数を、中央の円グラフは 2021 年の出荷台数を地域別比率で表しております。なお、日本と米州については、地域ごとの統計データが開示されているということで、それぞれ、日本は JIVA という団体、アメリカは ITA という団体の、2022 年 1 月から 9 月のデータを、薄い色の棒グラフで表示しております。

JIVA と ITA は、WITS とは集計基準が異なっておりますので、あくまでもご参考としての紹介となりますが、1 月から 9 月の市場台数は、世界経済の不透明感が強まる中で、日本は前年比ほぼ同水準で推移、米州は前年を上回って推移しているということが、見てとれると思います。

2. フォークリフト市場動向【受注】（四半期推移） Logisnext

- ・ 対前年同期比、日本・米州・APACで増加、欧州・中国で減少。
- ・ コロナ禍前よりは強い需要ではあるものの、欧米諸国の金融引き締めや中国のゼロコロナ政策、ロシアのウクライナ侵攻により、世界経済の大幅な減速懸念が高まったことで、需要は漸減。



※ClassⅢ：自走式電動小型リフト

注) WITS加盟団体の統計開示方針変更のため1～12月のCYで集計

© MITSUBISHI LOGISNEXT CO.,LTD. All rights reserved.

16

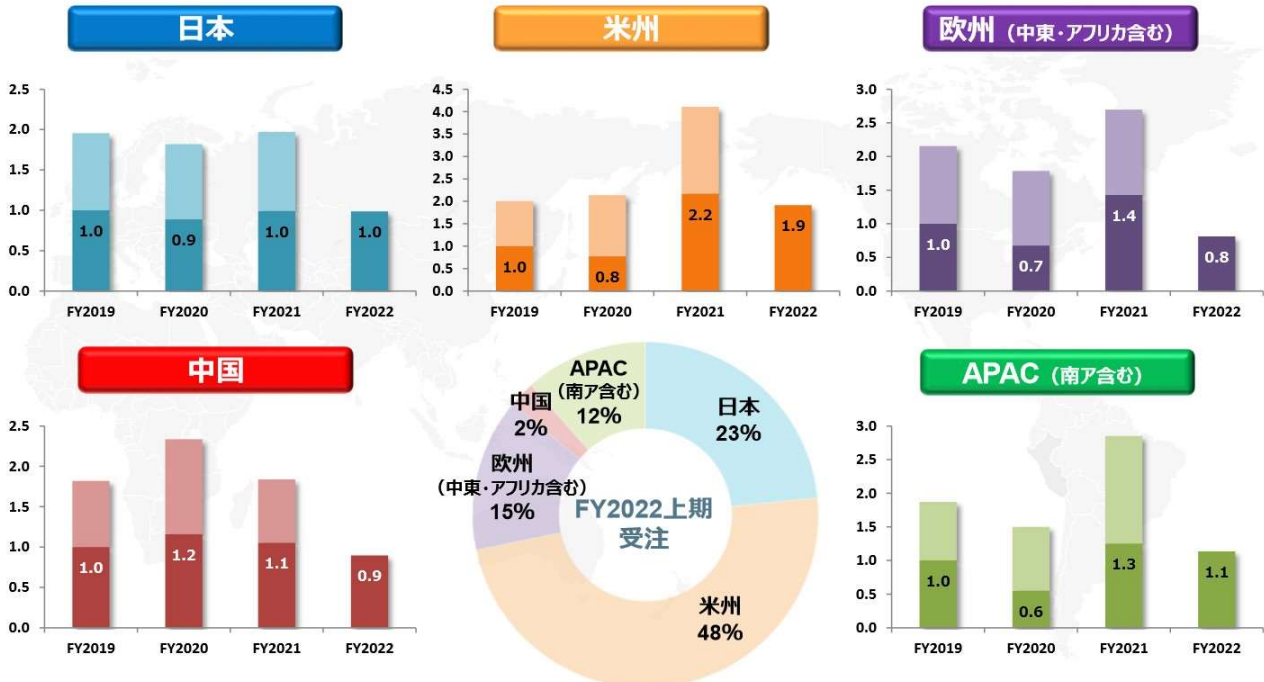
16 ページです。世界のフォークリフト市場の受注台数実績を、こちらの自走式の電動小型リフト、ClassⅢと呼んでおりますが、こちらだけ除いて、四半期ごとに並べて表したものであります。この受注台数もカレンダーイヤーで集計をしております。

2022 年第 2 四半期の受注台数ですが、日本、米州、アジアで前年同期比増加の一方で、欧州や中国では減少しているという状態であります。

全世界的にコロナ禍前の 2019 年度より強い需要ではありますが、欧米諸国の金融引き締めや、中国のゼロコロナ政策、ロシアのウクライナ侵攻による地政学的リスクの増加により、世界経済の減速懸念が高まっているということで、需要は漸減している状態であります。

3. 当社受注台数 (4月~9月)

米州・欧州でのコロナ禍の反動増による受注増が落ち着き、受注台数は前年同期比-16%。



注) FY2019/1H=1として指数化。小数点以下の差により、同じ数値表記であっても見かけ上グラフの高さに違いが生じることがある
© MITSUBISHI LOGISNEXT CO.,LTD. All rights reserved.

17 ページでは、過去 3 年間の弊社の受注台数を、2019 年上期の実績を 1 とした指数を、棒グラフで示しているものであります。中央の円グラフは、2022 年上期の受注台数を地域別比率で表しております。

2022 年上期は、米州、欧州でコロナ禍からの経済回復局面での受注増が落ち着いた状態だということで、受注台数は前年同期比で 16%減ということになっております。

4. 2023年3月期通期業績見通し

- ・ 売上高の増加や販売価格改定の効果、円安水準で推移している為替影響を踏まえ、業績予想を上方修正。
- ・ のれん等償却前営業利益は期初予想を+22.9%上回る見通し。

(単位：億円)	FY2022業績予想 (2022年5月公表)	FY2022修正予想 (2022年11月公表)	期初予想比増減	
販売台数	118千台	118千台	－	－
売上高	5,400.0	6,100.0	+700.0	+13.0%
営業利益 (のれん等償却前) (営業利益率)	175.0 (3.2%)	215.0 (3.5%)	+40.0	+22.9%
のれん等償却	95.0	100.0	－	－
営業利益 (営業利益率)	80.0 (1.5%)	115.0 (1.9%)	+35.0	+43.8%
経常利益 (経常利益率)	70.0 (1.3%)	100.0 (1.6%)	+30.0	+42.9%
親会社株主に帰属する 当期純利益 (当期純利益率)	25.0 (0.5%)	35.0 (0.6%)	+10.0	+40.0%
1株あたり配当	9円	9円	－	－

FY2022期初計画レート：USD=120円 EUR=130円 CNY=18.5円

FY2022下期計画レート：USD=140円 EUR=140円 CNY=20円

© MITSUBISHI LOGISNEXT CO.,LTD. All rights reserved.

18

続きまして、18 ページでは、今期の業績予想の修正について説明させていただきます。

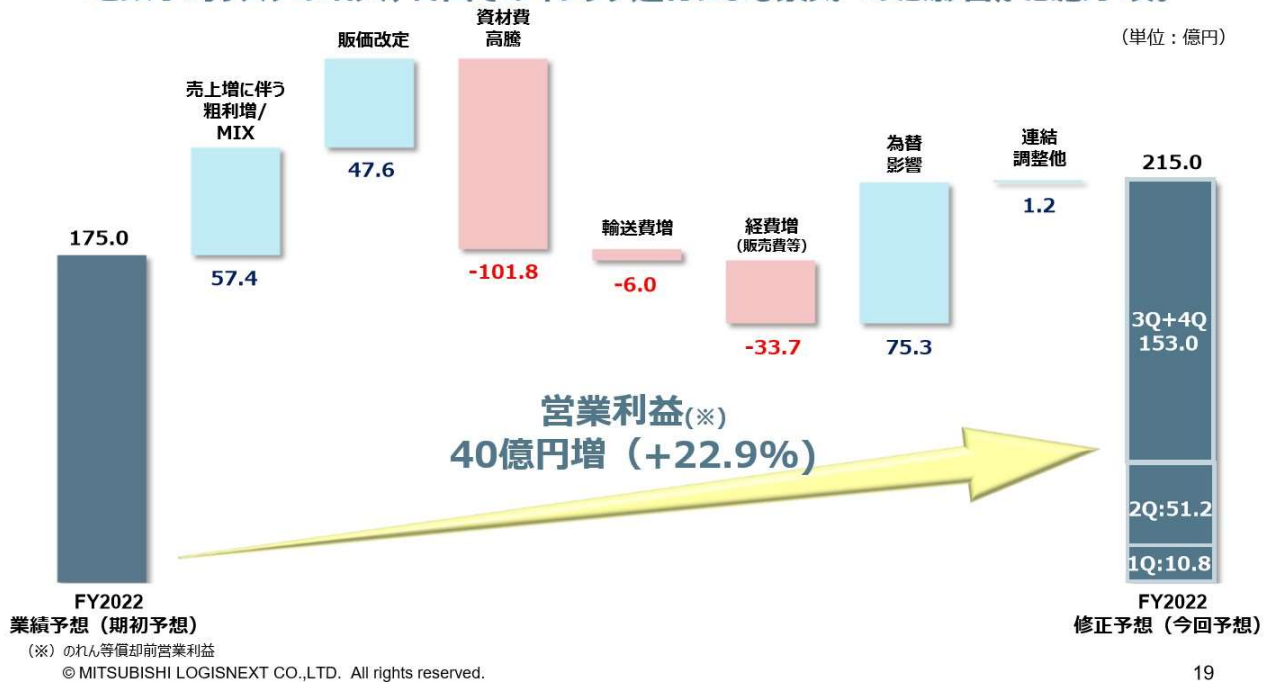
弊社は11月1日付で、本年5月12日に公表した予想を上方修正させていただきました。米州での販売台数増や、サービス、レンタル事業の好調による売上増に加えて、販売価格改定の効果、そして、為替の円安影響も寄与しているという状況から、第2四半期までの実績と足元の事業環境や、直近の受注状況を踏まえまして、業績予想を上方修正したということであります。

売上高は、5月の予想を約13%上回る6,100億円、利益は、資材費の高騰等による変動費の悪化も見込まれる一方で、先ほど申し上げました通り、売上高の増加、価格改定効果の刈り取り、さらに円安が寄与するという事で、営業利益115億円、経常利益100億円、当期純利益35億円と、全ての利益項目において5月の予想を上回る見込みとなっております。

なお、弊社が重要指標として位置づけているのれん等償却前営業利益ですが、前回発表と比較して40億円の増額となる215億円を予想しております。配当につきましては、1株当たり9円ということで、変更はございません。

5. 通期見通し 営業利益^(※)増減要因

- 半導体等の電子部品供給不足は最悪期を脱し、3Q以降は更なる生産・出荷の挽回、販売価格改定や為替影響の寄与を見込む。
- 輸送費高騰はピークを打ったものの、資材費は国内や欧州で未だ価格上昇が続くと想定。
- 地政学的リスクの増大、各国でのインフレ進行による景気への悪影響が懸念事項。



19 ページでは、期初の業績予想値から 11 月に公表した修正後の業績予想へ、営業利益がどのように増加したかという要因につきまして、項目別にウォーターフォールチャートで示しております。

半導体等の電子部品供給不足がようやく最悪期を脱しつつあるということで、下期は生産出荷の挽回が進むと見ております。それによって、売上増、加えて販売価格改定の効果が出てくる、さらに円安による為替影響が寄与することを見込んでおります。

資材費は、国内や欧州で価格上昇が続くことを想定している一方で、輸送費などはピークを打ったと、弊社としては見ております。

地政学的リスクの増大、また各国でのインフレ進行による景気への悪影響といった懸念材料はありますが、資材費、輸送費高騰影響を、価格改定効果や為替影響でカバーし、2022 年度のれん等償却前営業利益は 40 億円増の 215 億円を見込んでおります。

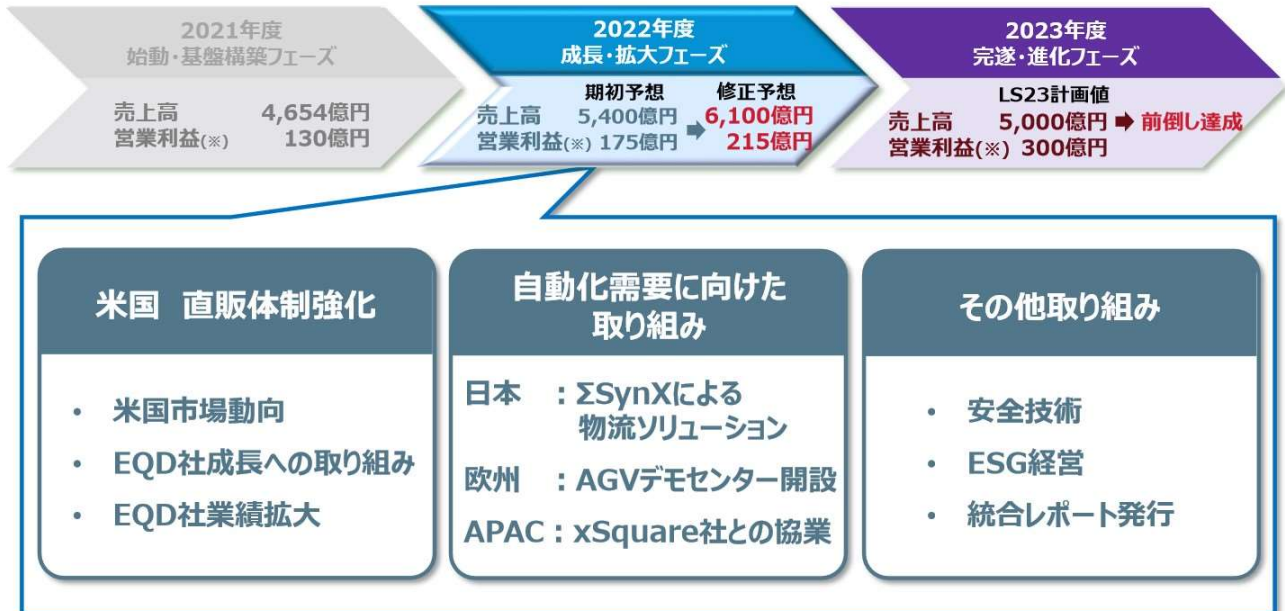
6. 中期経営計画 進捗状況

中期経営計画「Logisnext SolutionS 2023」(呼称、『LS23』)

企業耐力の強化

成長戦略の推進

ブランド力向上



(※) のれん等償却前営業利益

© MITSUBISHI LOGISNEXT CO.,LTD. All rights reserved.

20

続きまして、20 ページです。こちらのページでは、弊社中期経営計画、我々LS23 と呼んでおりますが、こちらの進捗状況について、説明させていただきます。

LS23 では、三つの基本戦略、一つ目が企業耐力の強化、二つ目が成長戦略の推進、三つ目がブランド力向上と、この三つの基本戦略を掲げて、2022 年度は成長拡大フェーズとして、このスライドの下半分にお示しした取り組みを行ってまいりました。

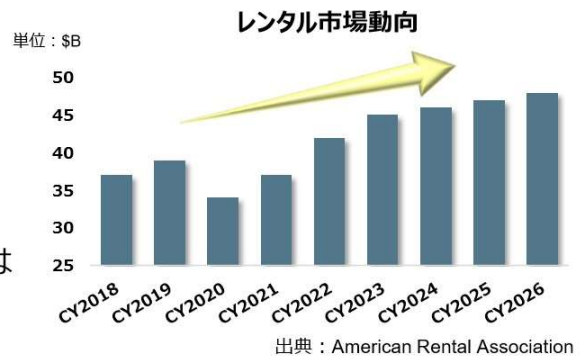
一つ目は、米国で 2019 年度に買収した物流機器販売会社である Equipment Depot 社、EQD 社と呼んでおりますが、こちらによる直販体制強化の取り組みについて。二つ目は、自動化需要に対する取り組みとして、日本や欧州、アジアでの取り組み事例を。そして三つ目は、その他の取り組みとしまして、安全技術、ESG 経営、さらに先般公開させていただいた、統合レポートについて説明させていただきます。

なお、LS23 の最終年度、2023 年度になりますが、こちらの数値目標は売上高 5,000 億円、のれん等償却前営業利益 300 億円としております。売上については、既に前倒しで達成する見込みではありますが、引き続き営業利益においても、LS23 計画値の達成を目指していきたいと考えております。

■ 米国市場動向

➤ レンタル市場

- CY2022…約420億ドル(予想)
コロナ禍前を上回り過去最高の見込み。
- 2021年に成立した約1兆ドルのインフラ投資法案等を追い風に民間投資も増え、需要が増加。CY2023以降も市場規模は拡大傾向。



➤ 物流ソリューション市場

- CY2022…約 80億ドル(予想)
CY2026…約120億ドル(予想)
e-Commerce の伸長や労働力不足を背景に物流の自動化需要が高まっており、年々成長が予測される。



© MITSUBISHI LOGISNEXT CO.,LTD. All rights reserved.

21

21 ページからは、アメリカでの直販体制の強化について、説明させていただきます。まず前提として、米国での市場動向を説明いたします。

スライド上段のグラフは、アメリカでのレンタル市場の市場予測ということになります。アメリカでのレンタル市場においては、コロナ禍で2020年に大きく落ち込んだものの、その後は経済活動の再開とともに、現在、力強い回復を続けております。

FRBの金利引き上げによる景気後退が懸念されてはおりますが、2022年の市場規模は、コロナ禍前の2019年の約390億ドルを超えて、過去最高の420億ドル程度になると予想されております。2021年に成立した約1兆ドルのインフラ投資法案等が追い風になって、民間投資も増加している中で、レンタル需要も急増しているということで、2023年以降も成長率は、これまでよりは若干緩やかになると見ておりますが、引き続き市場は拡大することを見込んでおります。

スライド下段のグラフですが、アメリカでの物流ソリューション事業の市場予測を示しております。アメリカの物流ソリューション市場ですが、eコマースの伸長や、労働力不足を背景に、物流の自動化需要が急激に高まっているということで、2022年は約80億ドル、2026年には約120億ドルの見込みと、こちらもこれから年々成長するものと予測しております。

8. 米国 直販体制強化②

■ EQD社成長への取り組み

企業買収

2022年6月1日、米国の物流機器販売会社 Norlift社を買収。
米北西部（オレゴン州およびワシントン州）向けの
販売体制強化を目指す。



レンタル事業 投資

レンタル車両不足回避のため、増車及び入替車両の発注を実施。
レンタル稼働状況は高稼働を維持。収益も2021年以降、好調に推移。



建設機械

高所作業車

フォークリフト

物流ソリューション 事業拡販

ソリューション事業部門「EQ Solutions」は、
人員増強、MLFI社^(※)製品の活用による製品
拡充などに注力。
順調に受注獲得中。

(※) MLFI社：Mitsubishi Logisnext Europe Oy (Finland)



EQSOLUTIONS

続きまして、22 ページです。このように、アメリカ市場が非常に好調な中、EQD 社はさらなる成長に向けて、企業買収、レンタル事業への投資、そして物流ソリューション事業拡販に向けて、注力してまいりました。

まず企業買収では、本年 6 月 1 日にアメリカ・オレゴン州の物流機器販売会社 Norlift 社の全株式を取得しまして、10 月 1 日には EQD グループに事業を統合し、運営を開始しております。

アメリカの北西部、オレゴン州やワシントン州での販売体制を強化して、フォークリフトのラインナップを拡充したほか、無人搬送システムなどの自動化機器類の取り扱いも、新たに今回開始したということで、これによって、フォークリフトの販売と、倉庫設備や自動搬送システムを組み合わせた、トータルソリューションの拡大が期待できると考えております。

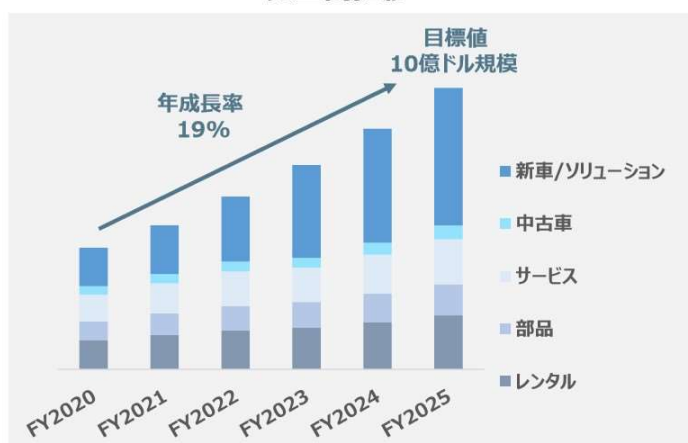
二つ目のレンタル事業投資ですが、先にご説明させていただいたインフラ投資法案等を追い風とした、公共投資、民間投資によるレンタル需要の高まりから、現在非常にレンタルフリートが高稼働の状況が続いており、車両不足の回避に向けた増車および入れ替え車両の発注を現在鋭意進めております。収益も 2021 年以降、非常に好調に推移しているということでもあります。

三つ目の物流ソリューション事業拡販に向けましては、昨年 EQD 社内に、EQ Solutions という事業部門を立ち上げておりますが、人員の増強や、フィンランドの我々の子会社、MLFI という会社の製品を活用して製品拡充に注力をしているところであります。こちら受注を順調に獲得しており、引き続き販売促進に努めていきたいと考えております。

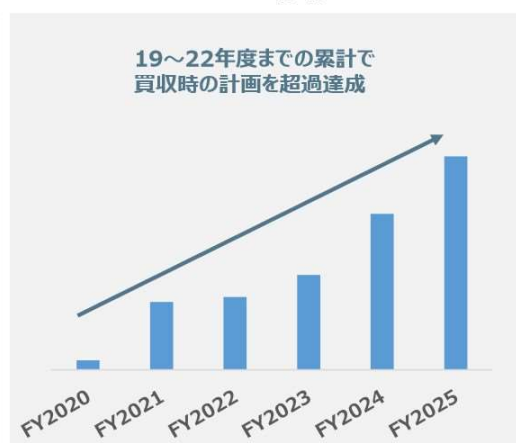
■EQD社業績拡大

- コロナ禍による影響はあったものの、好調な受注や、レンタル、ソリューション事業強化等を背景に増収増益の見込み。
企業買収により、EQD社の米国におけるカバレッジは、2019年から10%増の約35%に拡大。
- 今後は既存の新車、サービス、レンタル等のコア事業の強化・マーケットシェア拡大に加え、EQ Solutions等の成長領域に注力。

売上高推移



EBITA推移



© MITSUBISHI LOGISNEXT CO.,LTD. All rights reserved.

23

23 ページでは、EQD 社の業績について、見ていきます。

コロナ禍による需要減により、2020 年度は大きく業績を落としてしまいましたが、その後はコロナ禍からの回復局面での好調な受注や、レンタル、ソリューション市場の拡大を背景に、各セグメントで売上を伸ばし、増収増益を継続する見込みです。

また、企業買収などを鋭意進めておりまして、EQD 社でのアメリカにおけるマーケットのカバレッジは、2019 年から 10% 増えまして、現在約 35% と、カバレッジを拡大してきております。

既存の新車販売や、アフターサービス、リースレンタル等のコア事業の強化に加えまして、EQ Solutions 等の成長領域にも注力することで、これからも収益を拡大していき、弊社グループへの事業貢献も非常に期待できると考えております。

10. 自動化需要に向けた取り組み①

日本：ΣSynX (※) による自動ピッキングソリューションを提供開始

- AGV、AGF、パレタイザーを効率的に連携させた自動ピッキングソリューションを三菱重工業と共同開発。2022年9月1日から倉庫物流のお客様向けに提供を開始。



三菱重工業が運営する「Yokohama Hardtech Hub」で実証施設「LogiQ X Lab」を稼働し、お客様を対象とした見学をスタート。

ΣSynX技術で物流の知能化・自動化を実現、物流オペレーター不足の解決に貢献

(※) 三菱重工業が掲げる、物流機器の自律化・知能化ソリューションコンセプト「ΣSynX (シグマシンクス)」。
© MITSUBISHI LOGISNEXT CO.,LTD. All rights reserved.

24

続きまして、弊社成長戦略のポイント、自動化、安全技術、そして脱炭素。これらの一つである自動化需要に向けた取り組みということで、ここでは日本の事例を紹介させていただきます。

24 ページでは、以前から三菱重工業と取り組んでおります物流知能化・自動化プロジェクト ΣSynX の第1弾として、飲料倉庫向けの自動ピッキングソリューションの共同実証を開始しております。

これは、独自開発の最適化エンジンや、統合制御システムによって、複数の AGF、AGV、パレタイザーなどを効率的に連携させて、ピッキングのノウハウを ΣSynX によって知能化・自動化したソリューションです。昨今、物流オペレーターの人手不足、また重量物のピッキングといった重労働からの解放、そしてヒューマンエラーの削減と、このようなエリアで貢献できると考えております。

この実証実験ですが、三菱重工業が横浜本牧で運営する、ものづくりの共創空間、Yokohama Hardtech Hub の中にあります実証施設、Logi Q X Lab で行われております。10 月からはお客様を対象とした施設の見学もスタートしておりますので、ご興味のある方は、ぜひお越しいただきたいと思います。

本日ですが、このピッキングソリューションの動画を用意しておりますので、ご覧いただきます。

映像：物流オペレーターの人材不足、重量物のピッキングによる重筋作業、自動化における大規模な工事費用の負担など、これら物流の課題を解決するべく、三菱重工は、AGF、無人搬送フォークリフト、AGV、無人搬送車、パレタイザーを連携させた自動ピッキングソリューションを開発しました。

自動ピッキングソリューションは、弊社が研究開発を進める、ΣSynXによって自動化、知能化され、独自開発の最適化エンジンや、統合制御システムにより、それぞれの機器を賢くつなぎます。例えば、22箱の出荷指示の場合、満載の27箱から22回ピッキングするのではなく、5回ピッキングして残った22箱のパレットを完成品とすることで、最小の手数でパレットを出荷します。

また、商品が1カ所に集まってAGVの渋滞が発生しないように、分散して配置することで渋滞を回避し、効率よく搬送できます。そして、ピッキングする商品が十分にパレタイザーへ供給されている場合には、AGFは処理済みパレットの後片付けを優先し、ピッキングする商品が不足しそうな場合には、パレット供給を優先するなど、状況に応じて作業の優先度を自動的に決定することでアイドルタイムを減らします。

また、この自動ピッキングソリューションは、横浜製作所、本牧工場内に設立された、ものづくり共創空間であるYokohama Hardtech Hubで稼働を開始した施設、Logi Q X Labで実証を開始しております。

三菱重工は、自動ピッキングソリューションのみならず、新コンセプトAGFによるトラックの入出荷、倉庫内の入出庫など、グループの総合力を生かして、お客様の物流現場のさまざまな課題を解決する、最適なソリューションを提供してまいります。

1 1 . 自動化需要に向けた取り組み②

欧州：AGVデモセンターを開設

- 物流ソリューション事業への更なる貢献を目指し、フィンランドにAGVデモセンターを開設。
実際の倉庫環境を再現した具体的なデモンストレーションがお客様より好評。

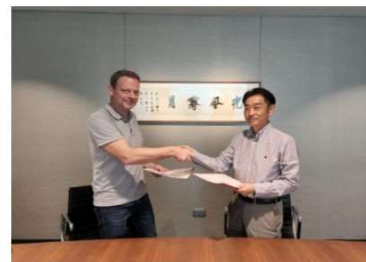


MLFI社デモセンター

© MITSUBISHI LOGISNEXT CO.,LTD. All rights reserved.

APAC：xSquare社との協業

- MLAP社^(※)は、2022年9月にxSquare社(x2社)とAGV開発・販売に関する協業契約を締結。
- APAC市場の物流ソリューション需要拡大に対応するため、シンプル・低価格なAGVをx2社と共同で開発中。



xSquare社とMLAP社の契約締結



(※) MLAP社：Mitsubishi Logisnext Asia Pacific Pte. Ltd.

間野： それでは次に、25 ページでは、ヨーロッパやアジアでの自動化需要に向けた取り組みを、ご紹介しております。

ヨーロッパでは、ミックスフリートといった、無人フォークリフト AGV と有人フォークリフトの共存を実現するソリューション事業へのさらなる貢献を目指して、フィンランドの MLFI 社に AGV デモセンターを開設しました。この施設ですが、単なるショールームというものではなく、実際の倉庫環境を再現しているということで、AGV とフォークリフトの両方を使用して荷物が運び込まれ、棚に保管し、出荷するまでを見ることができる施設となっております。特に、この倉庫内での具体的なデモンストレーションがお客様より非常に好評で、また遠方のお客様向けには、ネット上でのバーチャル空間も備え、ライブ配信にも対応しております。

アジアでは 2022 年 9 月に、シンガポールの子会社である MLAP 社が、現地の xSquare という会社と、AGV の開発、販売に関する協業契約を締結し、アジア市場での物流ソリューション需要拡大に応える、シンプルで低価格な AGV を共同で開発しております。将来的には、MLAP 社の販売網を通じて xSquare 社の物流ソリューションを展開していく予定であります。

■人とフォークリフトが共存できる安全システムの販売

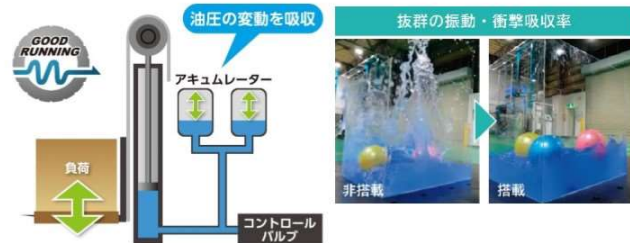
➤ AI人検知警報システム「OmniEye®（オムニアイ）」

- 車両周辺の安全確認をサポートするレグラス社製装置。マストとヘッドガードに取り付けた半球カメラで様々な姿勢の「人」をAIで検知、積層灯が警告して衝突事故を防止する。



➤ 走行振動・衝撃吸収装置「グッドランニングシステム」

- 車両に内蔵した2つのアキュムレーターで走行時の車体振動と衝撃を吸収、積荷の破損・騒音・オペレーターの疲労を軽減する。



© MITSUBISHI LOGISNEXT CO.,LTD. All rights reserved.

26

26 ページです。こちらでは、成長戦略の二つ目のポイント、安全技術の取り組みについて説明させていただきます。

フォークリフトの事故は、国内だけでも年間約 2,000 件発生しているということで、事故リスクの低減、安全性向上は、やはりメーカーとしての使命と考えております。そこで弊社は、フォークリフトに設置した半球カメラで周囲 360 度にいる、さまざまな姿勢の人を監視し、検出できる、レグラス社の AI 人検知警報システム、OmniEye®を搭載。こちらを安全機能として、お客様に提供しております。

また、フォークリフト走行時の車体振動や衝撃を吸収し、積荷破損・騒音・オペレーターの疲労を軽減する、グッドランニングシステムを開発、販売しております。こちらを通じて、作業者とフォークリフトが共存できる安全システムの構築に取り組んでいるところであります。

■カーボンニュートラルの実現に向けて

➤ 燃料電池フォークリフトの運用実証実験に参加

- 日本建設工業株式会社様内で行われている燃料電池フォークリフトを使った稼働実験に共同参加。
- 燃料電池フォークリフトは、燃料の燃焼が無くCO₂を排出しないため、地球にやさしいカーボンニュートラルに対応した荷役作業が可能。



燃料電池フォークリフト（実証実験中）



水素ステーションで燃料電池に水素を充填。
水素充填は約3分で完了。バッテリーフォークリフトのような長時間の充電が不要。

三つ目が、脱炭素社会の実現に向けた取り組みです。

27 ページでは、ESG 経営の一環として、カーボンニュートラルの実現へ向けた、燃料電池フォークリフトの開発について、説明いたします。

このたび弊社は、日本建設工業株式会社関東総合センター様の中で行われております、燃料電池フォークリフトを使った運用実証実験に参加させていただきました。燃料電池フォークリフトの特徴ですが、エンジンフォークリフトとは異なり、排気ガスがゼロであるということで、地球に優しいカーボンニュートラルに対応した荷役作業が可能となっております。

今後も、将来のカーボンニュートラル実現に向けて、引き続き、環境性能の向上に努めていきたいと考えております。

■「三菱ロジスネクスト 統合レポート 2022」

https://www.logisnext.com/investor/library/integrated_report.pdf

- 2020年度から発行を開始した「SDGs レポート」を拡充し、統合レポートとして発行。SDGs や ESG経営の現状と見通しに加え、物流業界が抱える課題の解決や脱炭素化への取り組みを掲載。
- 社長メッセージ、CFO並びにCTOメッセージのほか、社外取締役からのメッセージを新たに掲載。



© MITSUBISHI LOGISNEXT CO.,LTD. All rights reserved.

28

最後、28 ページです。こちらでは、本年 10 月に統合レポートを発行しておりますので、ご紹介させていただきます。

この統合レポートですが、2020 年度から発行しております SDGs レポートを拡充し、SDGs や ESG 経営の現状と見通しに加えて、グローバルに事業を展開する総合物流機器メーカーとして、世界の物流業界が抱える課題解決への寄与や、脱炭素化といった社会課題への貢献について、掲載しているものであります。さらに、それらを実現するための中期経営計画や財務情報、また非財務情報など、弊社事業の現状について、さまざまな視点から紹介しております。

また、弊社のビジョンや経営の現状などをテーマに、私からお伝えしたいことを、社長メッセージという形で掲載しているほか、財務基盤の強化、ならびに技術開発を通じた物流の課題解決をテーマに、CFO、CTO によるメッセージを、新たに掲載しております。

この三菱ロジスネクスト統合レポートは、弊社のホームページに掲載しておりますので、ぜひご覧いただきたいと思います。よろしく願いいたします。

以上が、2023年3月期第2四半期の決算概要、ならびに中期経営計画の進捗状況の説明となります。

先行きの読みづらい事業環境下で、三菱ロジスネクストを力強く成長させていきたいと思っておりますので、今後とも皆様からのご指導、ご鞭撻をいただきたく、よろしくお願いいたします。ご清聴ありがとうございました。

司会：ありがとうございました。それでは、これで資料の説明を終了させていただきます。

質疑応答

司会 [M]：続きまして、ただいまから、質疑応答の時間に移らせていただきます。それではご質問のある方、よろしくお願いいたします。

質疑無し

それでは、ご質問もないようでございますので、これをもちまして、三菱ロジスネクストの決算説明会を終了させていただきます。